

# 多賀工業会 東京支部会報

2004年8月 第7号



「語らい」 (ブラスチラバにて)

多賀工業会 東京支部

事務局 東京都文京区弥生2-8-6 (〒113-0032)  
支部長 近江 義勝方  
電話 03-3811-7088 (FAX共)

# 2004年 第7号 目 次

報 告	第24回東京支部総会開催のご案内	1
	講演会の講師と概要紹介 自動車のいろいろな話	1
	東京支部長挨拶 (第23回総会に当たって)	渡辺 益男 2
	新東京支部長挨拶 (同窓会の交わりを大切に)	近江 義勝 2
	第23回東京支部総会報告	小林 渡 3
	アンケート結果分析報告	4
	平成15年度東京支部会計報告	5
	平成16年度東京支部予算案	5
随 筆	滝沢先生の転居と吼洋寮を偲びて	石神 由範 7
	60年前の思い出の断片	明石 和夫 8
	ソフトボールと私	橋本 政巳 9
	カリキュラム雑感 今と昔	円谷 和雄 11
	馳せる想い	高田 洋 12
	転機を迎えた私の企業人生	水島 好彦 14
	ユビキタス社会	藤岡 晃喜 18
支部めぐり	水戸勝田支部の経緯	内山 岩男 15
インタビュー記事	ITライフサイクル・マネジメントを提唱	広瀬 勇二 16
お知らせ	囲碁同好会	山下 正明 19
	ゴルフ部	桜井 衛 20
	写真部	玉川 信二 21
	山遊会	小宅 仁 21
	平成15年度会費納入者	編 集 部 22
	ホームページのお知らせ	24
	多賀工業会東京支部会則(改正案)	25
	編集後記	24

## 表紙の説明

スロバキアの首都プラスチラバにて カメラ：SONY デジカメ

撮影とは面白いもので、狙い目も良いのですが、偶然も亦この時を逃すと再度やって来ないものです。2002年6月暑い日盛りマンホールから作業員が半身を乗り出しているこの像は、日本人観光客が必ずいくところと知られているようです。

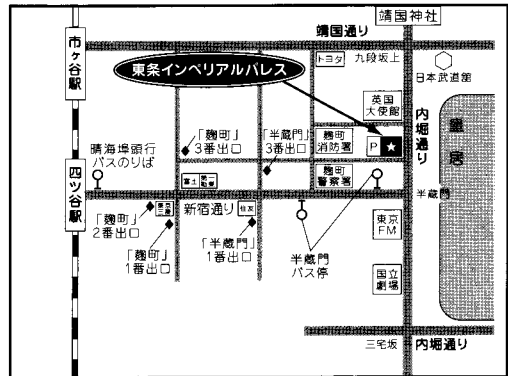
さて、周りに誰も居ないこの像を撮っていたら、何処からか子供達と若い女性が2名やってきて、子供達はアイスクリームをペロペロと、<sup>くみん</sup>件の女性は2人で作業員の上に腰をかけ、私には無頓着でお話を始めました。勝手に向こうからカメラに飛び込んで来たようなもので、断りもせずにシャッターを切りました。了解を得たくとも、スロバキヤ語は知らないし、私の英語は多分通じないだろうとそのまま立ち去りました。

お互いに話に夢中になり、私の存在など眼中に無かったのでしょう。

菊地 玲二 (昭26専通)

# 第24回多賀工業会東京支部総会開催のご案内

1. 日時 平成16年10月23日(土) 午後3時から
2. 場所 東条インペリアルパレス(右図参照)  
東京都千代田区麹町1-12  
電話 03-3265-5111  
交通: 東京メトロ(半蔵門線)半蔵門駅下車  
3番出口より徒歩3分  
都バス: JR四ツ谷駅(麹町口)より晴海  
埠頭行03系統 半蔵門下車徒歩2分
3. 会費 10,000円(当日受付で申受けます)
4. 講演会 下記の概要です。(午後4時~5時まで)
5. 懇親会 (午後5時~7時ごろまで)
6. 写真展 総会の会場内に展示します。(会員からの出展をお待ちしております)
7. お願い 出欠のご返事は10月4日(月)までに同封のハガキにてお願いします。  
なお、出欠にかかわらず、お手数でも同封の振込用紙にて、年会費2,000円をお振込みくださるようお願い申し上げます。
8. お問い合わせ先  
駒場 方耀(昭38学機) TEL:0426-65-8387  
広瀬 行一(昭38学電) TEL:0297-78-8737



## 講演会



### 自動車のいろいろな話

講師

モータージャーナリスト(RJC会員)

持田 幸武 氏(昭39学機)

元日産自動車海外計画部

元日本ゼネラルモーターズ(株)

(RJC:日本自動車研究者・ジャーナリスト会議)

自動車産業の裾野は非常に広い総合産業といわれています。今回お話しをするチャンスを頂きましたので、私の見聞したこと、経験したことをお話ししたいと思います。大まかな類別とトピックで紹介します。

#### 1. 自動車に関連する色々な数値

今では、エアバッグ付きの車が当たり前ですが、ではいったい車のオーナーはエアバッグのお世話になる確率はどれくらいあるのか計算した人がいます。

また自動車の安全性を実験検証する人体模型のダミーがありますが、これ

は全世界でアメリカ人の寸法しかないので、日本の車もヨーロッパの車もこれに基づいて作られています。

#### 2. 変わった自動車の法規

自動車の法規には、時々風変わりな物がありますが、そのいくつかをご紹介します。

#### 3. 車に使われている波

A. 電磁波について

B. 光波について

C. 音波について

どんな波長の電磁波、光波及び音波がどんな目的で自動車に使われているか、実例も交え紹介します。



#### 4. 石油にまつわる話

#### 5. 人口ピラミッド

これは自動車の長期商品計画を立てる時避けて通れないアイテムです。自動車だけでなく、最近問題になっている.....。

## 東京支部長挨拶 第23回総会に当たって

支部長 渡辺 益男 (昭19専精)

本日は多賀工業会東京支部第23回総会に、このように大勢集まっていたいただき有難うございました。私は精密機械科昭和19年第4回卒業で、2代目の東京支部長です。

この会は第1回初代石井支部長以来23年にわたり、東条会館で開催されてまいりましたが、この集まりの会場東条会館は、先代東条社長が先輩であるという御縁ではじめられ、ひきつづき東条会館のご好意をいただいております。

東京支部総会は当初から100名前後の卒業生があつまり、お互いの旧交を温め、情報交換等に活用され、且つこの会は東京という地の利も加わり、全国の卒業生の参加者も多く、親睦の貴重な機会となっております。

今日は本部役員をはじめ、全国各支部代表の御参列をいただき有難うございました。

これまでの経過を振り返ると、第1回目には旧制専門学校時代の卒業生が100名を超えて居りましたが、年々、旧制時代と新制時代の配分が変化し、ようやく大学卒業生が主力の時代へと転換期

に入ったことを痛感致します。

旧制専門学校卒業生中本日の参加者は16名も元気ががんばって居られますが、既に私をはじめ年齢も80歳を目前にせまって居りますので、年々自己健康管理が重要になっております。

同窓会の永続と発展を考えるにつけても、いよいよ大学をベースとする時代に入ったと痛感して居ります。私は支部長になった初年度、箱根の会も入院中で失礼しましたが、その後も健康上不安が多いため、支部長を引退することにいたしました。

次の支部長には大学第1回卒業の近江さんをお願いすることにし、幹事長には山崎さんをお願いすることにしました。

近江さんは東京支部発足当初からの幹事長で現在までの同窓会の全てについての生証人のような方です。この度の役員交替など支部規約については、次の支部長に改訂の検討もお願いするつもりです。

皆様この支部長交替について、御賛同をお願い致しますとともに今後の東京支部活動に引き続き御支援御協力を御願ひし、私の御挨拶と致します。

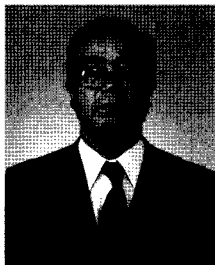
今日の集まりが一段と意義深い時間となりますよう、期待して居ります。

有難うございました。

## 東京支部長挨拶 同窓会の交わりを大切に

新支部長 近江 義勝 (昭28学電)

平成15年10月25日の第23回当支部総会で、渡辺前支部長の後任として第3代目支部長に推挙されました。年々総会出席者数が減少しつつある現況で、今後どの様に運営したら良



いか戸惑うばかりですが、微力ながら努力いたす所存です。同窓諸兄のご協力、ご鞭撻を宜し

くお願い申し上げます。

長寿国世界一の日本にあっては、まだまだ大先輩の方々に頑張って頂かねばなりません。戦前は我々男性には兵役、学歴、職歴の三つが有りましたが、現在は兵役がなくなり学歴、職歴の二つだけになりました。その一つである学歴、つまり同窓会が重要になってきます。我々が多賀工業会の一員であることは終生変わらない事実でもあります。人間の交わりは原因、目的から成り立っておりますが、同窓会ほど純粋な交わりはないと思います。

現在は昭和40年前後の会員が主流になりつつありますが、昭和50年以降の諸兄にも多数幹事になっていただき、多賀工業会の益々の発展にご支援賜りますようお願い申し上げます。

## 第23回東京支部総会報告

小林 渡 (昭38学電)

第23回東京支部総会は、平成15年10月25日(土)に東条インペリアパレスで開催しました。工専会員15名、大学会員43名が出席、来賓として本部副理事長鶴田浩一(42学電)、仙台副支部長矢澤藤一(28学電)、いわき支部駒木根和二(55短化)、水戸勝田支部長内山岩男(30学電)、栃木支部長小沼新作(30学機)、埼玉支部大和田武義(32学電)、静岡支部長高田勲(37学機)、中部支部長廣木守雄(32学電)の各氏をお迎えし、合わせて67名の方々に参加し総会、講演会、懇親会の順に盛大に行われました。

鶴田副理事長の挨拶では大学は独立法人化されることが決定され当学部も準備中であること、工業会本部に専任の担当者が配置され本部から支援が強化されること等の話がありました。渡辺支部長からは今期で退任し、新しい支部長に近江義勝氏(28学電)、幹事長に山崎慎一郎氏(31学原)が就任するとの挨拶がありました。同好会活動報告では従来ゴルフ部、囲碁部に加え、本年から写真部、山遊部が結成され、会員同志の一層の交流と親睦が図られるようになりました。又今回会員の総会・行事への参加、会報の要否等アンケートを実施した結果を発表しました。データは今後の会の発展の参考とします。

尚、懇親会会場の片隅には支部写真部のメンバーの力作が出品展示され、同好会活動の一端が紹介されました。

講演会は中国北京に15年在住し、NTT北京事務所長、日中合弁会社の総経理(社長)を勤められた寺内賢一氏(38学電)による「動く中国」～北京在住15年の眼に映ったもの～と題する講演が行われました。21世紀の巨大龍になるようにしている中国を、同氏の内側から観察した講演に皆様終始熱心に傾聴されておりました。

講演の概要は以下の通りです。

- **一般事情**：面積が日本の28倍、人口が10倍、多民族国家で幾つかの自治区を含む中国は、日本人の常識では理解出来ない所がある。
- **庶民生活**：ここ数年間で急速に向上したが、上流階級と一般階級とでは相当な開きがあ

る。10年程前の食料は配給制であったし、大衆の乗り物は今でも自転車であるが、一方では観光旅行が盛んで派手な結婚式も目に付く、国境では国際担ぎ屋が横行し、自由市場は衣料品・食料生品で溢れており、横流れ高級ブランド品まで出ている。この国では「権限を持っているか、金をもってないと生活出来ない」と言われているが、一方国が民衆に対し様々な施策をとっても、民衆はすぐにその裏をかいた対策を考え出す。中国人のしたたかさや逞しさには驚かされる。

- **中国通信事情**：国民生活と同様古いものと新しいものが同居している。通信線は裸線から光ファイバーまでが出揃っている。電話の普及が90年代から急速に進み、2002年現在普及率こそ34%と先進国に及ばないものの、総数では固定電話・携帯電話それぞれ2億加入以上と我が国の2倍以上の数字を示している。最近では民営化も進み企業間の競争も始まった。先端技術の国産化も盛んである。
- **巨大龍**：現在中国はGDP世界第6位、外貨準備高世界第2位の経済大国となっており、世界中から注目され、世界の工場となっている。中国は天に向かって登っている巨大な龍である。日本の終戦から現在に至るまでの過程を中国はここ十数年で疾風の如く駆け抜けてきた。それでも国民生活や技術レベルは上下相当の開きがあるので、中国を理解するには「群盲象をなでる」の考えで行きたい。レベルに相当の差があってもそれぞれの対象に属する顧客は1億や2億はいるのだから、どの層を狙っても商売は成り立つはずである。21世紀は中国の時代であり、隣国日本の重要なパートナーと考えるべきである。



講演中の寺内賢一氏

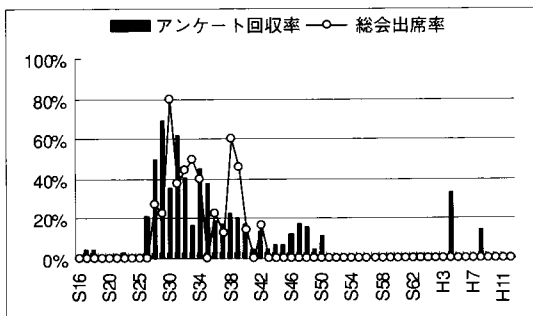
# アンケート 集計結果報告

昨年「東京支部会報・第6号」の配布と同時にお願いした「アンケート」に対し、多くの方々からご回答と大変貴重なご意見をいただきました。茲に厚くお礼申し上げますと共に、集計結果をご報告致します。

## I. アンケート集計結果

### － 1. 回収率・総会出席率

アンケート依頼数1169人に対し回答数142人でアンケート回収率：12%。回答者の総会出席率：27%。卒業年度別の状況は下図の通りです。



回答者は、昭和27年卒業生（75歳前後）から昭和42年卒業生（60歳以上）の間に集中し、総会出席者もほぼこの年代で占められています。昭和50年卒業生まではこれに次いでいますが、それ以降の約30年間の卒業生からの回答は数人に限られました。

### － 2. 多賀工業会の認知度

多賀工業会については、さすがに回答者の94%の人が存在を認知しているものの、行事への参加となると残念なことに半分の54%になってしまいます。

### － 3. 同期会について

一方、同期会になると開催していると回答した人は79%で、その内75%、4人に3人が参加しており、同期会への参加率は高くなっています。

### － 4. 会報の必要度

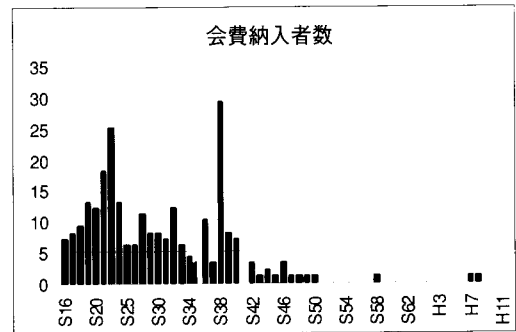
年一回発行する「東京支部会報」に対する必要度を調査した結果は、76%が必要で24%が不

要と答えています。4人に1人は要らないといっていますが、代わりにインターネットでホームページを開設して置き換えることを希望している人が含まれています。

## II. アンケートの課題と対策

### － 1. 東京支部の貢献者

左図のアンケート回答者の分布に対し、昨年の年会費納入者を同様に年度別に見ると下図のようになります。



回答者が、昭和27年卒業生（75歳前後）から昭和42年卒業生（60歳以上）の間に集中し、若手の回答者が少なかったのに対し、会費納入者は更に左側（高齢者側）に移動しており、何と支部を経済的に支えているのは70歳を越える大先輩の方々と言っても過言では有りません。

今のうちに、若い会員の増強を図らなければ、経済的破綻の来ることが明らかです。

### － 2. 同期会を梃子にした同窓会の活性化

同期会が参加率の高いことに着目し、同期会と同窓会の連携を図ること。具体的には同期会幹事等に支部幹事の兼務を願うことにより同窓会への参加率向上に繋いで行きたい。又、現役の皆様には同窓会の人繋がりを活用頂き、業務に役立てて頂きたい。

### － 3. 会報のあり方

支部としてかなり大きな力（予算、人手、時間）を投入して編集している「会報」に対しては、予想はしていたものの、4人に1人が必要無いと答えています。限られた原資を有効に活用するとの観点から内容や発行部数、配布先など色々な面から再度見直しを図らなければなりません。同時に、ホームページの開設には強い希望も出ており、情報社会の中では本格的に取り組む必要があります。

### Ⅲ. アンケートからの意見への対応

東京支部の幹事会で、集計結果をもとに検討し、最終的に以下のように集約いたしました。

#### ー 1. 支部会員の確保と活性化

支部としての最大の課題であり、今回のアンケートでも最も多くの意見が寄せられました。

**主なご意見：**○支部役員で各卒業年次学科別に代表者をリストアップする。○各科代表を通じ科毎の最低参加人員を割当て、責任を持って割当量を確保してもらう。これ位のことをしないと中央に位置する支部の存在が疑われかねない。○総会出席者数が年々減少している。何故出席しないのかの調査が必要ではないか。○若い人の参加が少ない（参加し難い）。若い世代の参入減。○若い人の新規参加が少なく毎年平均年齢が上がっているようです。支部同士でグッドアイデアが共有出来ればと思う。○敬老会？のイメージが強い（脱却が必要）。

**対応：**支部活動の目的は会員相互の親睦であり、そのために支部会員の確保が必要です。まずは、卒業時の担任から情報を得てコンタクトを試み、各年次学科別の代表者が輪番制や東京支部関係者ではない場合や、代表者が存在しない場合もあるので可能な範囲でキーマンを確保し、協力を願ってまいります。幹事に対する参加人員の割当は賛否両論あり慎重に対応を図り、幹事に限らず会員がお互いに誘い合って参加人員を増やすよう努力します。参加しない理由の調査は今回のアンケート分析もその一環ですが、一口で言えば「魅力に欠ける」ということで、特に若い人の意見にも耳を傾けていきたいし、支部同士での意見交換は積極的にいき、グッドアイデアは共有して行くようにします。

#### ー 2. 会報の扱いとインターネットの活用

情報化社会の中で、情報収集・提供の手段についても多くの意見をいただきました。

**主なご意見：**○上質の紙、立派な会報が年一度より、質は落ちて年2回位の配布にして貰いたい。○会報はホームページで十分。充実させることで会報不要。○まだまだインターネット参加者は少ない。老人ほど少なく、必要性さえ認めない。Eメールの応答を確実にいきその効果を宣伝する。

**対応：**平成15年度総会参加者の約半分はメールを持っており、現役世代は100%所持と推察され

ます。インターネット活用によりホームページを開設することに異存を唱える者はいませんので、開設を目指してまいります。但し、ホームページが開設されてもハードコピーの会報は必要であり、年1回の発行は継続します。

#### ー 3. 総会、会報に対する要望

**主なご意見：**○総会での講演は良い企画だと思う。演題に独立した人や起業した人などの苦労話など掘り下げて下さい。○立派な体験談が有意義にまとめられ楽しく拝見した（体験談の掲載）。○同期の出席者が居るか判らない。前回の出席者名及び写真を載せてもらいたい。○私は帰属意識もあまり有りませんので見るのは「訃報」程度で十分。○20年位前に東京支部の総会に行ったことあり、時間が経って若い頃の生活に心が動かなくなりました。○会社の先輩が音信不通だった私を登録してくれた。大学時代の同期生とは全く音信が無い。この会を通して皆の活躍している姿を見られれば良いと思う。○同期の動向が知りたい。

**対応：**新たな情報や要望のあった掲載内容については勿論のこと、アンケートに寄せられたご意見に対して、会報編集室、ホームページ編集室の編集企画会議で取り上げ、今後の編集に反映させて行きます。

#### ー 4. 他との合同行事や会員交流の場の設置

東京支部では昨年新たに山遊会や写真同好会が誕生し、年代の異なる会員同士の交流が更に活性化の傾向にあります。新たな提案がありました。

**主なご意見：**○地域別支部活動が年々盛大になっているようですが、ぼつぼつ関東全域総会のような企画をしては如何でしょう。3年に1度程度から初めては・・・○業界別分科会が出来れば良いのですが。○同期の集まり、話し合いも大事ですが、先輩後輩との交流も多くした方が良いと思う。特に1人ぼつちの時など話し相手をどなたにするか気になることです。この辺バランス良いテーブル配置が必要。

**対応：**他支部とは既に同好会レベルで合同の行事を実施していますが、これからも、貴重な意見を生かした交流の場を作る(増やす)努力を継続してまいります。

# 平成15年度多賀工業会東京支部会計報告

(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

収入の部	金額 (円)	支出の部	金額 (円)
前期繰越金	303,757		
第23回総会会費 67名x10,000	670,000	第23回総会費	677,119
年会費	596,000	懇親会費	535,130
本部援助金	250,000	講師謝礼	50,000
広告料	25,000	講演会資料・機器レンタル料	20,719
寄付	60,000	吊り看板	31,500
		後納郵便料 出欠回答はがき	18,590
		雑費 土産代、交通費	21,180
		会報発行費	631,703
		編集、印刷費	456,140
		発送配布 1186通	175,563
		会議費 9回 延べ122名	246,953
		会場費 幹事会会議室	6,950
		旅費・交通費	138,977
		静岡、いわき、仙台他7支部総会出席	116,197
		支部対抗ゴルフコンペ 4名	20,000
		交通費	2,780
		事務用品 名簿編集用CDR他	38,608
		通信費	21,830
		援助費 ゴルフ同好会、山遊会、囲碁部	30,000
		雑費 コピー代	28,700
		次期繰越金	83,917
合計	1,904,757	合計	1,904,757

上記の通り相違ない事を認めます。  
平成16年3月31日

会計係 溝口 知昭



監査 近江 義勝



# 平成16年度多賀工業会東京支部予算案

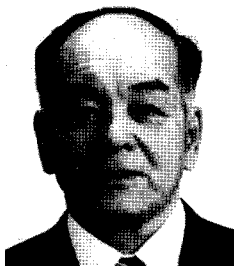
(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

収入の部	金額 (円)	支出の部	金額 (円)
前期繰越金	83,917		
第24回総会会費	800,000	第24回総会費	700,000
年会費	700,000	会報発行費	500,000
本部援助金	250,000	会議費	250,000
広告料	50,000	旅費・交通費	150,000
		予備費	283,917
合計	1,883,917	合計	1,883,917

# 滝沢先生の転居と 吼洋寮を偲びて

石神 由範 (昭22教電)

戦争も末期に近い昭和19年4月多賀工専に入学、新1年生は全員鮎川吼洋寮に入寮した。寮は新しく東西南北の4つの寮で、どの寮も2階建12室ある南向きの明るい学生寮でした。自分は南寮12号室で生活しました。北側一段低い所に



大きな食堂があり、その隣に大浴場があった。この吼洋寮で1年間生活し2年になると日立製作所鮎川寮に移り、学徒動員で日立海岸工場に派遣され、6月から7月にかけて艦砲射撃、大空襲を受け早川学校長始め1年生多数の尊い命が消えてゆきました。終戦となり9月より授業が始まり22年3月に卒業。7月新制中学校に勤務、27年母校の県立龍ヶ崎一高に転勤、以来25年間後輩の指導に当り、その後他高校2校に勤務しその間、日本理化学協会より表彰を受けました。62年には自由の身となり1町5反の農業を経営し、早や17年が過ぎようとしています。趣味は旅行と写真です。写真は5年前より茨城県芸術祭連続5回出品し3回入選致しました。これからも頑張ります。

## 滝沢先生を訪ねて

先生は退官後長らく広島にお住まいでしたが、平成13年12月に茨城県龍ヶ崎市に新居を建築して転住なされました。静かな田園郊外で空気の美味しい所です。先生は90歳半ばを超えられましたがお元気です。お顔も少しも変りなく、あの優しく微笑のあるご様子は昔とそっくりで、本当に喜ばしい限りです。先生は次男ご夫妻とご一緒に生活されています。4回ほどお邪魔しましたが、話題はいつも終戦前後の我々学生時代のことです。入学直後のあの鮎川浜での歓迎ストームや、寮生活(寮監をされていました)、艦砲射撃を受けた事、そして終戦、発電所見学や卒業までの学校生活等々。先生の机の上には、ボールペンと辞書と罫紙、その上に英語の文章が書いてあり、頭が下がるばかりです。先生100歳を越えて長寿を保たれますよう頑張ってください。

## 日立にて同窓会

工教第1回卒業生(22年卒)の同窓会を平成13年は筑波山、平成15年は日立にて開催致しました。昨年10月は日立駅前の天地閣に約30名が泊まり込み、盛大に喜寿を祝いました。我々学生時代に生活した日立市と現在の街では大変貌で驚くばか

り。九州、三重、新潟等からも参加があり、皆懐かしい顔。会の始めに全員で校歌「大空高く光満ち・・・」を声高らかに合唱し、若き学生時代の心を呼び起こし、喜びも悲しみも、当時を思い出し大いに語り合い、涙を流しました。閉会でも手と手を握り合い、寮歌「黒潮吼ゆる東海の・・・」を涙で合唱し、翌日学校及び吼洋寮を訪ねました。現在のアパート式の学生寮がみすばらしく中央に建っているだけで、昔の面影はどこにあるのか、探すことさえ出来ない有様。やっと見つけたのがポツンと立っている2つの寮の正門の門柱のみ。その門柱の直ぐ脇のこんもりとした木の下に一つの石碑があり、ほとんど人目にふれる事は無いようでしたが、これが日立海岸沖からの艦砲射撃の弾が、寮の玄関、東寮それに早川学校長の居住宿舎に命中し、亡くなられた学校長や学生の名前が連なり刻み込まれている、涙をそよる石碑でした。

## 旅の一齣

アフリカの旅はすばらしく楽しい。エジプト、チュニジア、モロッコ、ジュンバブエ、ザンビア、南アフリカ連邦の6ヶ国に6回程旅をしたが、チュニジア10日間の旅について少々記したい。アフリカ大陸の北部、地中海に面した3つの国、チュニジア、アルジェリア、モロッコを総称して「マグレブ」と云う。これは「陽の沈むところ」の意味らしい。この国の西はアルジェリア、東はリビアに国境を接している日本の半分位の国である。旅する前「この国は砂漠が広がり、砂塵が舞上り、これと云う産業もない貧しい国」と思っていた。ところが行って見て驚いた。その中にはアフリカ大陸の特徴的な自然がほとんど詰め込まれていた。北部は肥沃な緑野が広がり「ローマの穀物倉」といわれるほど小麦畑や野菜畑、ブドー畑。中部は草原地帯で規則正しく植えられたオリーブの林が続く、海岸地帯は白砂のビーチが美しく続く。南部は大塩湖と広大なサハラ砂漠、ナツメヤシが茂るオアシス。そこに住む国民はほとんどがアラブ人、日本には非常に興味がありどこに行っても歓迎してくれた。特に海岸線チュニズからスースフアックス、ガベス、ジェルバ島は高級ホテル保養施設が一杯。チュニズの郊外カルタゴ地区はローマ時代の遺跡が数多く点在し世界遺産だ。南部で一歩内陸に入ると砂と小石と岩の砂漠地帯、その中の一つマトマタ周辺は目を疑いたくなる地、月のクレーターのような穴が多数点在しベルベル人が住居としている。穴の中心から横穴が5~6ヶ掘られこれが倉庫や住居にされている。風土気候にもマッチしている。ベルベル人はなつっこい優しい人種の様だ。子供達は明るい目をして次から次へと話しかけてくる。その目がいつまでも心に残っている。

# 60年前の思い出の断片

工専の学科選びがその後の進路を決めた

明石 和夫 (昭22学金)

## (1) 中学4年から多賀工専へ

私は名簿上では旧制中学(現東葛飾高等学校、千葉県柏市)の卒業生であるが、実はそうではない。当時5年制の中学の4年時に、旧制の高等学校や専門学校の入試受験が可能で、合格進学した者は、卒業ではなく中退なのである。

今から60年前、昭和19年4月に多賀工専の金属工業科に入学して最初に驚いたのは、私より年長者の数がはるかに多く、2年以上年上の者も何人か含まれていたことである。吼洋寮に入寮して間もなく、同室の年長組から全くの子供扱いされ、気の小さい私などは大変心細い思いをした。いきなり大人の世界に放り込まれたショックから、しばらく立直れなかった。

## (2) 金属工業科は珍しい学科

昭和19年当時、金属工業科という名前の学科がある工専は、多賀工専だけではなかったか。ほかにもう1校あったかどうか、とにかく珍しい学科であった。大学の工学部では金属関係といえば伝統のある冶金学科があり、創立の古い工専のいくつかには、同名の学科があったように記憶している。これら冶金学科の多くは、昭和30年代頃から金属工学科(金属工業科ではない)と名称の変更を行い、やがて金属以外の物質・材料も対象に含めた、より総合的な材料工学科や物質工学科へと変身し、私の母校の一つである東京大学では、いまマテリアル工学科と呼ばれ、名実ともに新しい学科へと衣替えをしている。

## (3) 何故金属工学科を志望したか

中学3年生のときであったか、理科の教科書に、日本で発明された世界に誇る強力な磁石材料として、本多光太郎博士のKS鋼と三島徳七博士のMK鋼の紹介が、挿話の形で記載されていた。その記事に触発され、自分もこのような金属の勉強をしたいという思いが生まれた。小学校時代に磁石を使って砂鉄を集めた遊びの楽しい記憶も、頭の片隅に残っていたのであろうか。父と2人の兄が、それぞれ土木、精密機械、電気のエンジニアであった関係からも、向き不向きも考えず理工系に進学するつもりになっていたようである。本来の文系志望者も、不本意ながら理工系の学校

## [著者プロフィール]

昭和26年3月東大第二工学部冶金学科卒業  
続いて同大学院を経て東大生産技研研究生  
昭和49年10月東大工学部金属工学科教授  
昭和63年9月東京理科大学理工学部教授  
平成15年3月同退職  
専門：軽金属の熔融塩電解  
プラズマ材料プロセッシング

に逃げ込んでくる時代でもあった。

旧制高等学校の理系への入試では、実力の不足に加えて初めての経験ですっかり上がって大失敗をした。工専への入試では、前述のような思いから多賀工専の金属工業科を志望した。結果的には、合格点の低い学科を選んだことになったのでは？

## (4) 終戦直前から直後

### 一日立工場での思い出一

工専の2年目、確か昭和20年の比較的早い時期に、金属工業科の全員が勤労働員によって日立製作所関連の諸工場に配属された。私は毎日吼洋寮から海岸工場まで通ったが、配属先は現場そのものではなく、新しい鋼材の開発部門であった。そこで熱処理をした材料について、主にビッカース硬度の測定を受け持った。指導をして下さった技師に、根本さんという素晴らしい着想と優れた実験技術の持ち主がおられ、その時受けた感銘と鮮烈な印象は、今も忘れられない。

空襲時には振り替え休日のため寮で休んでいて助かり、海上からの砲撃には、寮後方の鮎川の断崖に身を伏せて難を免れた。終戦時にも寮に居り、例の玉音放送は登校して聴いた。

## (5) 卒論実験とその後の推移

3年次の卒論実験は海岸工場の研究所で行ったが、未熟で不器用な私は、装置(膨脹計、Dilatometer)を壊すなど失敗ばかりしていて、なかなか有効な実験データを採取できなかった。共同実験者の松永吉之助君(後に住友金属工業小倉製鉄所で活躍、故人)の努力が無ければ、私の卒業はむづかしかった。

ある時、実験室の片隅に置かれていたMetal Progressという英文専門誌を開いて、目次から面白そうな論文を選んで目を通し始めたが、全く歯が立たない。

(次頁下段へつづく)

# ソフトボールと私

橋本 政巳 (昭38学電)

私は、趣味として行うスポーツとして、いわゆる個人プレーとしてのゴルフとチームプレーとしてのソフトボールに長い間かかわっている。どちらにも一長一短があり、それぞれに面白いものがあるが、ここではそのうちのソフトボールの体験について述べさせていただくことにする。

## 本格的に始めたきっかけ

大学卒業後、NECへ入社し、府中事業場へ配属となった。結婚後しばらくは東京都東久留米市に住んでいたが、通勤に不便なこともあり、昭和50年の暮れ、府中市に新しく出来た団地へ引っ越した。17号棟からなる大きな団地で、翌年、自治会の主催で「号棟対抗ソフトボール大会」が開催された。私は、即座に応募し、勝ち負けは別として、楽しいひと時を過ごすことが出来た。当然のごとく終了後は反省会（飲み会）があり、話は「チームを作って府中市で試合をしよう」ということになったのである。大学卒業後14年経過しており、仕事も忙しい時期ではあったが、結婚後太り始めた身体はますます太り、「健康に気をつけなければ」と考えていたこともあり無条件で加入することとした。そして、小さい頃から野球が好きで、三角ベースの野球などをするだけでなく、スコアブックなどは自分で作ってラジオの中継を聞きながら記録をとったりもしていた。そんなこともあってルールに詳しくあったのか初代の監督に祭り上げられてしまった。（腕の方が今一だったからかもしれない）

## 発足当初の活動

発足当初は参加希望者が多く、AとBの2チームに分けていた。始めた目的が「健康と親睦のため」だったので、最初のうちは勝ち負けに関係

なく和気あいあいとやっていた。やがて「やるからには勝とう」ということになり4年後には男子1部に昇格して府中市の大会に準優勝、チーム名を変えて再出発した57年春には大会で念願の初優勝を果たすことができるまでになった。こうしてチーム一同がんばっては来たが、もともと皆30歳代後半から始めたので、チーム全体が高齢化し、弱体化してきた。活動を始めてから10年経った62年には男子2部に落ち、春の大会で優勝はしたもののメンバーの数も少なくなり、廃部直前となってしまった。しかし、捨てる神あれば救う神ありで、この時に救世主が現れたのである。チームの活動地域に住むある方がスポンサーになってくれた上に、他のチームからの参加希望者などがあってメンバー補充も上手くいきチーム名を変えて62年秋からの再出発となった。これが現在活動中の「よしクラブ」である。ここでも監督として活動することになったが、監督とは言っても実際には連絡係といった方が良いだろう。何しろ試合日当日に9人以上確保することが一番大事であり、そうでなければ監督としての仕事が出来ないからである。

## よしクラブ時代

こうして新しい「よしクラブ」の活動が始まったが、上手く行くときは何でも上手くいくもので、翌年春には北海道の自衛隊で活躍していた本格的な投手が加入し、一段とチーム力が高くなった。この結果、63年には40歳以上のメンバーで戦う「東京都壮年大会」に府中市代表として出場し、決勝戦1-2で敗れはしたものの東京都準優勝という栄誉を手にすることが出来、活動意欲はいっそう高まったのである。また、平成5年には高校インターハイで準優勝をしたチームで投手をやっていた選手が大学卒業後に加入し、府中市では完全に無敵の状態になった。

(次頁★印へつづく)

(前頁からつづく)

英語の読解力の極端な不足、専門用語の無知から、おおよその内容の把握さえできない。情けない気持ちであったが、これではいけない、勉学を続けなければという発奮のきっかけになった。

昭和22年3月の卒業後、めばしい就職口は無く、ほぼ1年間、生まれたばかりの新制中学校の臨時嘱託講師をしながら予備校に通い、翌昭和23年に希望する大学の工学部冶金学科に入学で

きた。卒業後紆余曲折はあったが、やがてその学科に招かれて職を得た。後年、工専のクラス会で、工業に無縁の職業について成功した同期の出世頭に、お前はまだ金属に関係した仕事にしがみついているのかと皮肉を言われたことがある。確かにその通りで、多彩な人生ではなかったが、悔いはない。

★（前頁からつづく）

府中市の春・秋の大会では、平成3年から2年連続優勝の後1季だけ準優勝となっただけで、今日まで10年間21季連続で優勝を続けている。



東京都一般社会人優秀監督賞を受賞(平成15年10月)

これには、選手個々の力や運があったのももちろんであるが、やはり何といっても大きかったのは、「ウインドミル」で本格的に投げられる投手の加入があったことだと思う。ソフトボールの試合では、投

手、捕手間が14.02mしかなく、スピードボールの投げられる投手の存在が大きな意味を持つのである。100 km/hスピードで投げられるとプロの選手でも最初のうちはバットにかすりもしないであろう。特に高校インターハイ準優勝の投手は、スピードだけでなく、ソフトボール独特の浮き上がる球、いわゆる「ライズボール」が得意であり、とても打てたものではない。彼の最盛期は、一試合で何個三振が取れるかが焦点だった。このような投手を配下に持つと監督はメンバー表を作成して提出すれば、後は何もしないで済むので、こんな楽なことは無かった。この結果、平成6年秋には東京都大会で念願の初優勝を果たし、通算でも5回の優勝となった。おかげで東京都の他の市区のチームとも交流が生まれ、また別の楽しみが増えることになった。もうひとつの大きな大会、都民大会ではなかなか優勝できなかったが平成11年度にこちらも初優勝を果たすことが出来た。これは活動しているなかで宣伝効果があったのか、その後、大学の部活で活躍した選手などが口コミで次々と入部しさらにレベルが上がったためでもあると思う。昨年秋の東京都大会でも優勝し、今日今年のシーズンを迎えているが、若手メンバーの多くが結婚し、子供も出来たことなどから日曜日とはいえども簡単には参加できなくなってきた。現メンバーでの活動もそう長くはないのではと感じている昨今である。

## ソフトボールの魅力

こうして気がついてみたら26年間もソフトボールにかかわってきていた。ソフトボールは、ベース間が18.29mという狭さなので、広い場所を必要とせず、気軽にプレーできることと、スピーディであり、かつ、年少者から高齢者まで戦えるという利点があると思う。投手の投げ方も下手からで、これは人間の身体に適した投げ方といわれ、選手生命が長いのが特徴である。50歳を過ぎてても現役バリバリで活躍している選手が多いのである。前述したように、「試合をやるからには勝とう」ということでやってはいるが、終わればみんなで反省会(?)である。これがまた楽しいのである。このためにやっている人もいるくらいである。わがチームは40歳以上が10名(年長組)、35歳以下が15名(若手組)とバランスがよく、練習は全員で行っているが、試合のときは年長組がサポート役で、試合はほとんど若手組がおこなっている。このバランスがチームを長続きさせている要因ではないかと思っている。また、メンバーには最初のチーム発足以来、一緒に活動している仲間が4名いる。この仲間がいなかったらとても今日までは続かなかったであろう。

このようなことでソフトボールのある日は、完全に仕事のことは忘れ、楽しんできた。ストレス解消には絶好のものであり、翌日からはまた新たな気持ちで仕事に向かうことが出来たのである。もちろん負けたときは悔しい思いをし、良いことばかりではないが、何時までも尾を引くことは無かった。若い時の仕事は、担当客先の関係から徹夜や休日出勤が多く結構ハードだったが、今日まで元気でいられるのも、このソフトボールがあったればこそで、その出会いに感謝の気持ちで一杯である。また「亭主元気で留守が良い」の年代になれば全く問題ないが、若い時には家族の理解がなければ継続は出来なかったであろう。そういう意味でゴルフウイドウならぬソフトボールウイドウとしてしまったが、理解ある(諦めた?)妻にはただ感謝あるのみである。

### 〔著者プロフィール〕

昭和38年4月 NEC入社  
(放送局自動化設備の設計担当)  
平成12年 NEC御殿場を定年退職  
趣味・スポーツ (野球、ソフトボール、ゴルフ)  
・音楽 (プラスバンドでクラリネットを担当・・・大学まで)  
・パソコン

# カリキュラム雑感今と昔

円谷 和雄 (昭42学金)

わたしは私立大学に勤務している。学部を卒業したあとこれまで幾つかの大学の学部と大学院のカリキュラムをみてきた。その体験をとおして、私自身が受けた学部教育を振り返ってみたい。

## 山行の帰り多賀駅から教室に直行

わたしが入学したのが1963年。大学2年生のときに東京オリンピックが開催され、当時山岳部に属していた。開会式のラジオ実況中継を鹿島槍ヶ岳登山のために山麓から60kgのザックを背負って歩きながら聞いていたことを思い出す。

当時、吼洋寮に住みながら年間100日程度は山に行っていた。その後の私の精神形成には山岳部での生活、学寮での体験、学部で受けた教育が大きな影響を与えている。当時、同じ学科に入学した学生数はたしか36名程度であった。専門科目のうち約9割は必須科目であり、4年生になってようやく数科目の選択科目があった。だから2、3年生の頃は山行の帰りに夜行列車に乗り、つぎの朝早く常陸多賀の駅から教室に直行した。教室の入り口にザックをおき教室にはいり講義を受けた。山行期間は約1週間であった。この間のノートは、当時コピー機がなかったので朝までかかって写した。いまどきは、期末試験直前になると、図書館などに設置してあるコピー機の前には長蛇の列ができる。しかも1人で10数部コピーしている光景もある。

## 水準が高かったカリキュラムと補講

その後、卒業研究では千早研究室に所属すると教員たちは雑誌からの抜粋論文を青焼きしていた。論文から写真をとり青焼き原稿をつくっていたのだろう。必須科目の場合、学生の卒業がかかっているのに逆に単位を取りやすいという現在の状況とは全く反対に、当時の工学部においては、卒業するには科目担当教員の要求する水準をクリアする必要があった。教員の皆さんの信念は強く各教員はカリキュラムの水準を維持すべく講義していた。また、休講は殆どなかった。3年生のあるとき、何らかの理由である午前中の科目が休講になった。学内を徘徊している学生群を目撃した教員が、その理由を事務に関わり合わせ理由を聞き、学生は教室に集められ補講を受けたことを記憶している。しかも学生の在校時間帯に空き時間

が生じないように蜜につまった講義時間割がつけられていた。つまり、学生主体の時間割構成であった。いま、私の勤務する職場ではこれは全く逆で、教員の都合にあわせた時間割である。かつ必須科目数は1割未満である。そこで学生の持っている知識が不均質である。いまどきはこれを学生の個性化というようである。

## 異科学生混合の基礎科目講義の長所

当時、機械工学科と電気工学科は数学とかの基礎科目は同質の教育をうけていた。とうのは同じ教科書をもちいていたからである。工業化学科と金属工学科はそれとは別グループの教育であった。すなわち受講クラス構成が二分されていた。専門教育における数学の使用頻度が異なるが故の配慮であったのだろうが、機械・電気系の使用している微分積分学の教科書を私も購入しそれを学習した。その後もこの書物は役だって、教育・研究を生業にしてからも頻繁にそれを使用していた。その後、我が子がそれを引き続きつかっている。いま、私が在籍している理工学部では数学、物理、語学など基礎科目の受講体制は混合クラスである。そのクラス群には建築とか数学科の学生も含んでいる。かつ共通の教科書をもちいているので、私が経験した状況はおこらない。また、混合クラス体制は質の違った友人をつくり将来の情報チャンネルとして作用している。

## 通学スタイルと学業成績の今昔

当時の寮生はバンカラで毎晩ストームの洗礼があった。ストームとは、各部屋を回って互いに自己紹介する行動であり、いかに熟睡していても起床して正座し対応する。夜半、熟睡中の「ストーム、ストーム」という大声に覚醒する。部屋を順番に回って近づいてくる状況が聞こえ、緊張して寝床におさまっている。突然部屋の戸が明けられ、電気が点灯される。しかし、途中で静かになることがある。疲れて安心して眠りに入った。しかし、全寮ストームに挑む兵も居た。ストームを受けると朝寝坊することになる。でも隣に寝ていた先輩の起床の音で覚醒し、身支度をする。すぐ食堂で朝食をとり、おばさんが詰めてくれた弁当をカバンに入れ寮前の坂を降りて国道に向かった。その通学者の群れは密度がたかく、砂埃の立つ道を、前列を歩く人の背中を見ながら6号国道へ向かって歩いた記憶がある。毎日違う人と話しながら通学した。

(次頁下段★印へつづく)

# 馳せる想い

## 高田 洋 (昭47学機)

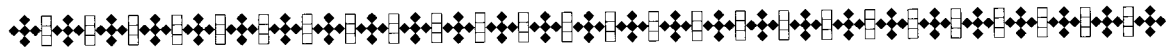


1972年3月の卒業以来日立には足が遠のいているが、春の桜を見るたびに成沢のグラウンドに咲く桜、神峰山の桜など古くなった記憶を思い浮かべる。過ぎ去った青春のページとなった時間。そして今も続くその時代に得た人との絆。同じ時間

に同じ思いを巡らせ同じ環境を共有する友人たちそして師。人との巡り合いに多くの感謝の念を抱くのは年の為せる技か。卒業以来、多くの人達と接する機会を得て感じたことを思いのまま書き記したい。

## 産油国

卒業後、縁あって石油エネルギーに関係する職を得て、多くの産油国で仕事をしてきた。お陰でその国の方々の考え方や歴史の流れを肌で感じる事が出来た。最初の産油国はインドネシア。まだ卒業3年後のことで、世間知らずの頭の中では日本人の優位性ばかり感じていた傲慢な時代でもあった。ホテルインドネシアの向か



### ★ (前頁からつづく)

寮生は皆真面目に授業に出ていた、と思う。当時は河原子に住んでいる下宿生がもっとも成績がよく、ついで自宅通学生、最後が寮生という順であった。もちろん例外の人もいた。いま勤務している私大の理工系学科では、この順が別で自宅通学生の成績が良い。学生の学業に対する熱意が薄くなって、同居している両親の目がその成績を支えている、と解釈すべきなのだろうか？

## 興味深いカリキュラムの変遷

当時の工学部には大学院が未設置であった。わたしは進学したいと考えてはいたが、その具体的な対策をせずに就職活動もしなかった。大学院入試に不合格の暁には浪人するという明確な覚悟をもち、受験し入院することになった。新しい研究室に所属すると、その隣の一色研究室はわたしの大学時代に卒業研究の指導を受けた恩師千早先

いに建つ高層オフィスビル、ヌサンタラビルの最上階から見るジャカルタの夜景は寂しさを感じる程暗かった。地方の道路は雨期が明ける度に舗装し直さなければ車が走るのは大変だった。当時3時間かかった道のりも、今では高速道路が出来て1時間になった。ジャカルタ市街の夜景も今や満艦飾。しかし今でも記憶の隅に残っているのは、西ジャワの石油開発補給基地で会った若人の眼差しで、これから国を作る意気込みに満ちていた。技術の一つ一つの習得に見つめる目は美しかった。

## パーレビの時代と今

1979年2月に起きたイラン革命がパーレビ国王を退去させ、ホメイニ師を国の指導者として迎え入れた。イラン革命直前の時期に私はテヘランを拠点に東へ、西へ、カスピ海へとかけずり回っていた。当時山崎豊子著の不毛地帯がサンデー毎日に連載され丁度イラン編のあたりであった。イランも大産油国としてサウジアラビアとその覇を競っていた。確かに当時は小バリと呼ばれたテヘランと地方の生活格差は大きな隔たりがあり、地方では小中学生に相当する子供たちも生活の糧を求めて仕事に従事している一方、テヘランの一部の階層の傲慢ぶりは顰蹙を買うに十分なものであった。今革命後25年を経て変わったものは多くあると思うが実感としては (次頁へつづく)

生がかつて所属していた研究室であった。千早さんが急逝され、その後一色さんが後任として工学部に赴任した。まもなく学園紛争が盛んになり、工学部長であった一色さんは、カリキュラムにおける必須科目数を大幅に減らした、と本人から聞いたことがある。

わたしが卒業したのは1967年、あれから37年経った。いま工学部のカリキュラムはどう変化したのだろうか？この2004年に国立大学は法人化した。私は工学部の教育体制に大きな関心を持っている。

### 〔著者プロフィール〕

1972年4月 明治大学工学部勤務

その後理工学部機械情報工学科基礎機械研究室  
第一原理分子動力学法のアルゴリズム開発と  
それによる物質設計を研究している。

担当科目：機械情報数学演習、材料科学など

(前頁からつづく)

- ① パーレビ皇族に繋がる特権階級が、宗教界指導者階層に入れ替わったこと。パーレビ時代は数百人レベルの皇族係累が今では数万人レベルの特権階級まで拡大したこと。
- ② 石油を買いに来るアジア人に対し傲慢性が消え、同高さの目線で話せる友人となったこと。
- ③ 一方では、覇気を感じる人達が消え、何でも上意下達でしか動かなくなった社会。

ではないだろうか。イラン・イラク戦争後に大ベビーブーム発生し、その年代が10歳代後半から20歳代前半を迎え就職機会を得ることが出来ず失業問題と直面している。我らは日本の団塊の世代。我らの生きてきた時代を彷彿させる。

## 砂漠の蜃気楼

1980年代には北アフリカ最大の産油国リビアにいた。リビアは地中海に面しローマ時代の遺跡や、イスラム文化、オスマントルコの支配、第2次世界大戦ではロンメル将軍の敗戦など歴史がある地。そんな国の太古には大森林地帯であったはずのサハラ砂漠の地中深くに石油が眠っている。当時の人口350万人足らずの国が100万バレル/日(約16万KL/日、日本の1日の石油消費量の約1/4に相当)の石油を生産しながら、石油収入が政治的な支出に向けられ、国民一人一人の生活向上にはほど遠い状態であり、テロ支援を打ち切るためアメリカのレーガン大統領によって1986年には爆撃を受けてしまった。日本では太平洋戦争後平穏な日々を送っており、爆撃を受ける経験者は数少ないと思うが、私はその数少ない一人として深夜の爆撃の衝撃を経験した。関係者に誰も被害が出なかったことは不幸中の幸いである。

## 産油国のエゴ

イラクのクウェート侵攻によって始まった湾岸戦争は今でも多くの傷跡を残している。当時イラクを支持したヨルダン人、パレスチナ人達は今でもクウェートやサウジアラビアの職場を追放されたまま戻れない。入れ替わりに入ったエジプト人達は尚更弱い立場に置かれている。しかし潤沢であったオイルダラーも陰りが見え、サウジアラビアでは急増した人口問題を抱え失業問題は深刻である。20-30人の募集に

5,000人を超える就職希望者達がシボレーに乗って駆けつけた。そのうちの200人は皇族の推薦状を持ってきた。一番印象に残るのは出稼ぎに来ている開発途上国の人が言った一言。「早くこの国の石油が枯渇して、人間として物事を考えるようになって欲しい」。

確かにサインをするためだけに入社する管理職者。あとは日がな一日お茶とおしゃべりでは、同じ職場にいても同僚として馴染むことが出来ない。

世界第2位の埋蔵量を誇っていたイラクも近年の戦争で疲弊し、新規探鉱機会が失われて埋蔵量を加算出来ず、カナダに第2位の位置を譲っている。そして今は混乱の極み。早く国内が安定し友人達と再会できることを願っている。

## アジアの最貧困

最近ではバングラデシュでの仕事の機会が増えた。バングラデシュはガスに浮かぶ国とも言われアジアの最貧国だが天然ガスに恵まれている。しかし開発資金が手当てできない。開発しても国内の市場ではガスを享受できる者と利用出来ない貧者に分かれてしまう。バングラデシュのエネルギー開発の友人は「ガスで発電して子供達に電灯の明かりの下で勉強させたい」と理想を語るが、理想の実現は難しい。日本のODA支援も橋の建造や農村開発に集中してしまうが、何が支援の効果を生むか改めて考える必要がある。

旧ソ連邦の解体で影響を受けた中央アジアの産油国。20世紀をリードした西の石油産業発祥の地でもあるアゼルバイジャンでは経済の混迷の中、道端で物乞いをする少年達に出会ったときの衝撃は大きかった。ノーベルがダイナマイトを生み出し、ノーベル賞の資金の元を築き上げた地でもある。その石油が枯渇し始めたことが旧ソ連崩壊の始まりでもあったのかも知れない。

つらつらと思いを書き留めてみたが、日本の平和について改めて感謝の気持ちを強く感じる。駄文に最後までお付き合い頂き感謝申し上げます。

### [著者プロフィール]

現在、日本オイルエンジニアリング(株)勤務。  
石油・ガス開発生産に関わる  
コンサルティングに従事。

# 転機を迎えた 私の企業人生

水島 好彦 (昭53学電)

1978年3月に茨城大学を卒業してから、早いもので26回目の春を迎えました。これまで26年間製造一筋に歩んできました。

## お客様に育てられた技術屋時代

私は小型空気圧縮機部門に配属され、その後約12年間はその部門にあった自動機の制御設計を担当しました。売上規模の極めて小さい部門でしたが、少人数ながらも他社に打ち勝つ製品開発に努めていました。自動機という製品の性格上、その仕様は個々に違っており、設計者のまずやらねばならないことは常にお客様の設備担当の方が満足いただける仕様決めでした。引合いがあるとお客様を訪問し、お客様のご要求を伺い、それを実現するためのアイデアを盛り込んだ図面や仕様書、価格を提示し、受注に結びつけるのです。受注になるとその仕様に基づいて設計を行い、製作、納入となります。お客様のご要求は千差万別で、それを満足するアイデア=技術を持っていないと決して受注には結び付かないという宿命を背負っていました。私は制御担当ということで最初はリレーシーケンスの勉強からスタートし、マイコンのハード設計、ソフト設計と世の中の技術進歩の跡を追いかけるように技術習得を行いました。大変厳しい時期でしたけれども、私にとっては技術屋として大変充実した時期であったように思います。その一方で、電機、機械、窯業など数多くの分野のお客様と接するには、それぞれの業界固有の考え方(文化)を理解する必要がありました。この理解なくして、設計した製品はお客様の生産現場でその機能を十二分に発揮せず、お客様に喜んで戴けるに製品にはならないのです。数々の失敗を繰り返しながらもその経験のお陰で、後半には何とかお客様の意図を汲み取り、我々の持つ技術を活かして、お客様に喜んで戴ける製品を納入できたのではないかと自負しています。

その後、それまでとは一転して新分野製品の開発を約3年担当したのですが、この時も新分野製品ということで製品のコンセプト作りから仕様決定、開発、販売に際して、我々がターゲットとしたお客様の意見を聞くことからスタートし、試作と評価を繰り返すとともに製品のプレゼンテーシ

ョンを行い、お客様の評価を受け、次の改良につなげることによって、発売することができました。

## 生産改革に注力した製造時代

1993年に設計開発から小型空気圧縮機の製造部門の担当に移り、まず2年間は工場の営業窓口の課長を担当しました。従来技術をベースに



した業務から、納期対応に代表される極めて人間臭い業務を担当しました。当時はバブル経済が破綻した後で、作れば売れるという時代からお客様の要求に応じて作るかというように大きく変革した時代でした。当時の工場

長の大号令の下、見込み生産から受注生産に変えるという大きな生産システム変更の緒に就いた時期であり、従来対応できなかった短納期の要求に如何にして応えるかを第一義に改革を進めました。

JIT(Just In Time)生産方式を取り入れることによって、生産リードタイムの短縮を図り、効率的な生産の実現を目指しました。これまで培ってきたコアとなる製造技術を活かしつつ、新しい考え方と融合させ、進化させる活動は正に、改革という言葉に恥じない活動でした。設計出身の私は従来のルールや慣例に囚われなく行動できた反面、業務に精通していた訳ではなく業務の整合性を取ることがなかなかできませんでした。それを助けてくれたのが、経験豊富なスタッフの存在でした。議論を重ね、従来の社内の論理に埋没しがちな思考をお客様志向に切り替えて、新しい生産システムを構築する一端を担わせてもらいました。その後、製造全般を担当し、生産システムを進化させるのに注力して行く中で、数多くのことを学んできました。

## 転機

そのような中、この3月に突然、会社が親会社に吸収合併される発表がありました。私自身、これまで自分の会社に対して特別な想いを抱いているとは思っていませんでしたが、この発表には心の動揺を隠せませんでした。吸収合併の主旨は事業形態を集約することによる効率向上であり、より発展するための施策ではあるのですが、

(次頁下段★印へつづく)

## 支部めぐり

# 水戸勝田支部の経緯

水戸勝田支部長 内山岩男(昭30学電)

貴支部より投稿の依頼がありましたので当支部の経緯を紹介させていただきます。

昭和40年代には、まだ茨城県内に同窓会の支部はありませんでした。当時、先輩の故柳生廬(18専電)氏、山本奎兵衛(20専通)氏のお二人が、諸般の事情を考えて、水戸市・勝田市(現在は那珂湊市と平成7年に合併し、ひたちなか市になっている)周辺の職場や個人の卒業生に呼び掛けて設立の準備を進め、昭和51年に水戸勝田支部が多賀工業会、四番目の支部として発足しました。当地域には、卒業生が、官公庁関係(原研、動燃、県庁、電々公社、国鉄、茨城高専、水戸工高、勝田工高)と民間会社(日立製作所関係で水戸工場、勝田工場、那珂工場、東海工場、佐和工場。日立工機、原発)等に多く勤めておりましたので、会員の把握、名簿の作成、会費の納入なども比較的順調に進み、総会にも大勢



の参加がありました。昭和60年に入って、山本幹事長が支部長を継ぎ、事務局を支部長の会社、茨城電話工業株式会社(現在も当支部の事務局)に移しました。平成元年に開催された工学部創立50周年記念事業や平成4年の多賀工業会創立50周年行事には地元支部として積極的に協力をして参りました。又、山本支部長は、「同窓会に定年はない」「同窓会の人脈は宝です」の信念で献身的に当支部の活動は元より、全国の会員にも同窓の輪を広めようと支部の組織作りにも貢献されてきました。

平成9年、大村好雄(26専通)氏に支部長が変わり、大村様の人柄で元気に諸行事をこなしていましたが、平成11年突然、脳内出血で倒れ返らぬ人となりました。後任役員編成に少し時間を掛けましたが関係者の協力で現在に至っています。

当支部の会員は、現在、卒業年度からみますと工専時代が200名、短大時代が600名、大学で昭和時代が700名となっていますので、幹事の依頼もこの点、考慮してお願いしています。又、会の運営は幹事長を中心に常任幹事会、幹事会を開催して組織の充実と会員相互の交流を深める為の行事に検討を加えながら取り組んでおります。

以上当支部の経緯を述べて参りましたが、多くの先輩方のご尽力を受け継いで、多賀工業会の存続、発展の為にも頑張らなければと思っています。どうか、今後とも宜しくお願い申し上げます。

# 大協印刷株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東2-4-14 TEL:03-3837-5291 FAX:03-3837-5293  
info@daikyo-print.co.jp

★(前頁からつづく)自分の会社がなくなるといふことの寂しさを感じずにはいられませんでしたが、しかし、今の私の立場では事業の遂行を立ち止ませることは出来ません。会社がどのような形態になろうが、常に事業を前進、進化しなければなりません。これまで、多くのお客様、緒先輩に指導いただいたことを糧として製造メーカーとして、もの作りの原点に立ち返って、お客様に喜んで戴ける製品をつくることに邁進することしかないと今、考えています。私の会社人生も残り10年余りとなりましたが、これまで多くの人に支え

られてきたことを財産として、これからも多くの人とのつながりを大切にして、部門の発展に微力を尽くしたいと考えています。

## 〔著者プロフィール〕

1955年(昭和30年)大分県に生まれる

1978年(昭和53年)トキコ株式会社入社

《主な担当業務》自動機の制御設計、空気圧縮機、  
応用製品の開発、  
空気圧縮機の製造

《趣味》ゴルフ、スポーツ鑑賞

ITライフサイクル  
マネジメントを提唱株式会社PFU 代表取締役社長  
広瀬 勇二氏 (昭40学電)

[編集部から] 広瀬勇二さんは富士通に入社以来昨年の6月PFUに移るまで、殆どシステム・エンジニアの仕事をしてきました。この経験をもとに、ITシステムの企画・開発・運用を人間の生涯になぞらえ、お客様企業のIT活用に関する全過程を一貫してサポートする「ITライフサイクル・マネジメント」を提唱しています。PFUの東京本社がある川崎駅近くの近代的な高層ビル「ソリッドスクエア」を訪問し、お話を伺いました。訪問者は同じ富士通出身で、昨年プロジェクトXに登場した新沼 厚生氏です。

・・・ 昨年、富士通の専務取締役を退任され、PFUの社長に就任されましたが、どのような会社ですか。又、抱負をお聞かせください。

## ☆ ITシステムの生涯を一貫サポート

1987年ユーザック電子工業とパナファコムが合併、現在のPFUに社名変更し、富士通傘下の会社となりました。昨年度売上940億円、従業員2,300名の中堅IT企業で、業務用機器の開発・製造部隊に加え、営業、システム・エンジニア及び保守サービス部隊を併せ持ち、主力の業務用スキャナーでは世界1のシェアを誇るなど、技術色の濃い会社です。

就任以来、「ITライフサイクル・マネジメント」を事業方針に定め、得意とするマイレージ登録機やスキャナーなどの開発・製造のみならず、そのソフトの開発、そしてこれ等を接続するネットワーク及びコンピュータのシステム開発、更には機器の設置、保守サービスなどを一貫してサポートすることを特長としています。

PFUにはこれを実現できる幅広い技術が揃っております。その強みを活かすべく、社内各部門の連携を深め、ハード、ソフト、サービスの先進技術を結集した「ITライフサイクル・マネジメント」により、お客様から信

頼されるパートナーになることを目指しています。

・・・ところで、富士通時代の所謂、システム・エンジニアとして過ごした中で、忘れられない一番の思い出と言えば？

## ☆ 挑戦・創造・感動

33年前の昭和46年2月、「第一銀行と勸業銀行が合併」という衝撃的な報道がありました。

当時私は、第一銀行のオンラインシステム開発を担当しており、入社7年目のシステム・エンジニアとして、仕事が面白くなってきた時期でもありました。第一銀行はコンピュータ、窓口端末装置ともに富士通製、一方の勸業銀行は某社（以下A社）製の機器を使用しており、合併発表と同時に、新銀行のオンラインシステムの帰趨が、内外の重大関心事になりました。

業界の盟主を誇るA社は、当然のごとく、富士通製機器を一掃し全てA社製機器に置換える強気の提案を出してきました。当時の富士通は、金融機関オンラインシステムの分野で急速に実力をつけつつあり、実績豊富なA社を相手に、挑戦者として負けるものかとの気概に溢れていました。

A社に対抗する形で、複数台の超大型コンピュータを組み合わせてセンタ・システムを構成し、各支店の窓口端末装置は、A社製も含めて既存のものをそのまま使用するという、意欲的な提案を行いました。新技術を駆使し、移行の安全性を重視した柔軟なシステムとして、両銀行の関係者からの高い評価につながったことを覚えています。

上司、事業部門、営業部門などが親身になって若い私たちシステム・エンジニアを支え、提案の具体化、新しい技術の開発、銀行トップへの働きかけなどに尽力してくれました。打つ手打つ手が功を奏し、そのままでは実現しないと思っていた富士通製コンピュータによるシステム統合が、徐々に現実味を帯びてきた時は、文字通り胸踊る思いでした。

第一勸業銀行発足前の昭和46年8月、内定の通知を得た時の高揚した気持ちを今でも忘れることが出来ません。

・・・ 仕事を通して、思い出深く、印象に残っている人はどんな方ですか。

## ☆ 「UNIX坊や」

10年以上も前になりますが、当時、東日本地区のシステム・エンジニア部隊を統括していた私のもとに、ある課長から担当者の配転申請が届きました。私がのちに「UNIX坊や」と呼ぶようになったその地方出身の若者は、上司である課長の思惑をよそに終日UNIXを搭載した高性能端末にへばりつき、まだ一部の研究者やマニアの間でしか認知されていなかったインターネットにのめり込んでいたのです。

課長から配転申請を出されたことを知った彼は、あらためてことの重大さに気づき、私の席に押しかけ必死の思いで自分のやっていることの先進性、重要性を切々と訴えはじめました。その迫りに押されインターネットのデモを見る羽目になり、彼の席に出向き、そして驚きました。今では知る人も少ない「モザイク」という閲覧ソフトを巧みに操り、鮮やかに国内外のホームページ巡りを披露してくれたのです。

配転申請を一旦保留させ、管理職やお客向けのデモを何回か企画しているうちに、気がつくと私自身がその先進性を説いて回っていました。しばらくして、富士通グループの情報共有ツールとしてインターネットが大々的に取り上げられ、アツという間に全社活動に広がって行きました。

その時は、彼も上司に気兼ねすることなく、その実力を存分に発揮してくれました。

「UNIX坊や」は、私に所謂「オタク」の存在の大切さを教えてくれたような気がします。



社長室における広瀬勇二氏

なお、後日談になりますが、先日、「広島県警本部の竹花本部長、東京都の副知事に就任」との記事を見た時、私は懐かしい「UNIX坊や」のことを思い出しました。

4年前、省庁のホームページが何者かによって改竄され、大きな事件となったことをご記憶かと思います。当時この事件を担当したのが、

警視庁生活安全部の竹花部長（現、東京都副知事）でした。竹花さんから富士通に内々で調査への協力要請がありました。私はとっさに「UNIX坊や」が適任と判断し、彼とともに警視庁を訪れ、富士通としてチームを組んで協力する旨を申し入れました。期待にたがわず彼の活躍は目覚しく、警視庁の関係者を大いに驚かせたことを覚えています。

その後、竹花さんは広島県警本部長に栄転されましたが、ある日、広島の銘酒が私達二人に送られてきましたことも、懐かしい思い出です。

・・・ コンピュータが今後の社会に及ぼす影響では、どんなことが予想されますか。

## ☆ ユビキタス時代

コンピュータはパソコンやサーバとしてだけでなく、その形を変えて多様な機器に組み込まれ、ネットワークでつながって行きます。いわゆる、ユビキタス時代の到来です。情報家電などに代表されるIT分野の技術的進歩は目を見張るものがありますが、一方で多くの課題を抱えています。

- ・ 企業が長い年月をかけて蓄積してきた、膨大なソフト資産の維持・更改をどうするか？
- ・ 大規模オンラインシステム並みに肥大化した、携帯電話組込みソフトなどの開発・維持は？
- ・ 社会システムとして私たちの日常生活に深く入り込んでいる、ITシステムの信頼性対策は？
- ・ コンピュータウイルス、個人情報漏洩などへのセキュリティ対策は？ などなど

ユビキタス時代は始まったばかりです。この分野に携わる世界中の関係者の知恵と努力で、これらの課題を解決して行くしかありません。「ITライフサイクル・マネジメント」を標榜するPFUとしてもやるべきことはたくさんあります。

## 訪問後記

社長室に通されて、まず、びっくりしたのは、書類のファイルが全く見当たらないことです。机の横には、パソコンとPFUご自慢のスキナーがあり、貰った資料はすべてスキナーでパソコンの中に取り込むそうです。

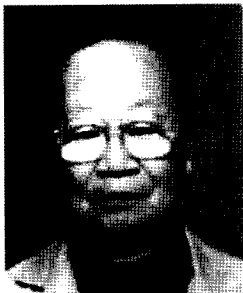
前任社長が使用した棚には、書類の代わりに花や陶器が置いてありました。さすが、最先端に行く企業は違うものだと、感心しきりでした。

新沼 厚生（昭38学電）記

# ユビキタス社会

藤岡 晃喜 (昭33短電)

ユビキタスは「いつでもどこからでも誰でもあまねくコンピュータにアクセスできる環境」のことを指す。米ゼロックス社のマーク・ワイザーが提唱した概念だが、それより4年前の1984年、わが国IT産学協同のトロンプロジェクトリーダー、東大の坂村健先生が、外部電源無しで動く小さなトロンチップを開発し、すべてのものに組み込み「あらゆるものにコンピュータ」のコンセプトで、世界に先駆けて唱えたとして、自らはユビキタスの元祖だと称している。ユビキタス社会実現の構想は、2005年を発展期、2010年を成熟期と見据え、世界最先端のIT国家構築プロジェクト(e-Japan計画)として進捗されている。事業規模は2005年が約30,3兆円、2010年で約84,3兆円を超すという。その取り組みは、「①いつでもどこからでも誰でも自由にネットワークに接続できる。②どんな端末機器でも一時的にマイ端末にして活用できる。③特定端末機器でも自在なコンテンツサービスができる。④光化で快適にアクセスできる超高速ネットワークとする。⑤セキュリティが確保された安心・信頼のあるネットワークにする。」これらの実現をサポートする技術として「テレポーテーション・センサーネットワーク・エージェント・高度認証・暗号・アプライアンス」などが、産学官共同重点開発プロジェクトで進められている。



## コンピュータが劇的に小型化

ユビキタス社会が実現できる最大の技術革新は、コンピュータが劇的に小さくなり、信じられないほど安くなったこと。いま世界中で年間に製造されるコンピュータは、およそ83億個でPCなどに1,5億個が使われ、残りは産業機器への組み込み用で、そのデファクトスタンダードがトロンだ。例えば自動車のエンジン・ブレーキ・エアバック・クルーズ制御・その他多くの装置に使われている。また人工衛星きく2号、ISDN交換機、携帯電話機、事務機器、デジタル家電、電腦住宅などなどに組み込まれている。まさにトロンはユビキタスを目指す日本発日本独自のオリジナル

コンピュータOSなのだ。ユビキタスの実現を支える超小型チップ(超小型コンピュータ)はおおよそ数ミリから1ミリ角より小さなものを指し、これに配線やアンテナが加わり形は様々で、有線で動作する接触型(社員証、会員証、学生証、クレジットカードなどに使用)と、無線で動く非接触形(JR定期券、愛知万博入場券、電子マネー、ルームキー、などに使用)がある。また情報を格納するメモリー機能だけのRFID(電子荷札・ICタグ)がある。最新のRFIDは0,3ミリ角、バーコードの6000倍の情報量を格納出来る。2000回の洗濯や200度の熱に耐えられるので、応用は無限。刷り込み・編み込み・取り付ける等々。例えば、紙幣・有価証券・小切手・パスポート・身分証明書などの偽造防止。BSE・米などの偽装防止。電化製品・ブランド品の模造防止。スーパー・コンビニ・回転すしなどのレジ処理。薬瓶・点滴・ビルメンテナンスなどの安全管理。養魚・養殖・渡り鳥・うなぎなどのライフサビリティおよびトレイサビリティ。アパレルなどの洗濯管理。FAの素材・パーツ・組立・加工・工程・入在庫・入出荷・在庫管理。物流の荷物・コンテナ・レンタル・リース・リサイクル管理などなど。これらユビキタスの実証実験フィールドとして、六本木ヒルズ・京都・岡山市内が指定され、実証実験事業が着々と進められている。ユビキタスの今後の課題は、ネットワークの高度化や技術の標準化である。最重要なものはセキュリティの確保で、より高度な暗号・認証(虹彩・静脈・DNA)技術の対応が求められている。

## 便利でも超管理型は御免だ

やがてパソコンをはじめ、身の回りのいろいろなものがネットワークに繋がって、社会や組織等既存の枠組みを遥かに超えて、人・物すべてが情報を発信するようになるだろう。ユビキタス社会は、個人の生活様式・企業のビジネスモデルやひいては国家や世界の在り方までも、ひっくり返る大きな構造革命の力を持っている。またユビキタス社会は超便利社会なのか、超管理社会なのか見解が分かれるところだが、人間生まれながらにして一人一人に、超小型コンピュータが埋め込まれ、住基ネットワークに結び付けられて、管理されるような未来だけは御免だ。

### 〔著者プロフィール〕

元NTTで全国市外電話通信網・電話交換機等の建設プロジェクトや電子交換機等新技术の現場・商用試験にリーダーとして従事。

URL <http://homepage3nifty.com/fujioka/hinagata-1.xml>

# お知らせ 囲碁同好会

部長 山下 正明 (昭32学電)

平成12年に4名で発足した囲碁同好会も、本年2月14日に開催された第17回大会には20名の参加者となり、益々楽しい内容のある同好会へと発展しております。また会員数も現在29名となっております。囲碁大会は日本棋院東京本院において、

毎年2・5・8・11月の第2土曜日の午前11時に開催しております。対局は持点制で行い、1局ごとに勝者が1点を加点し敗者が1点を減点します。この持点を段位基準点にあわせ段位を決定しています。また順位は準スイス方式で決めており、入賞者の表彰は参加者の増えた第10回大会から行っております。入賞者・大会参加者・会員および段位基準点は次のとおりです。

## 入賞者

大会	優勝	準優勝	3位	4位	5位	7位	奨励賞
第10回	新沼四段	照沼四段	佐藤1級	—	—	—	小室秋四段
第11回	山下六段	兼子二段	近江3級	—	—	—	関四段
第12回	兼子二段	山下六段	高田二段	—	—	—	桜井二段
第13回	佐藤1級	田口五段	照沼四段	—	—	—	宮木二段
第14回	照沼四段	高田二段	田崎二段	—	—	—	小室四段
第15回	小室秋四段	佐藤1級	高田三段	関四段	—	—	田北二段
第16回	桜井二段	小白井三段	山下六段	宮木二段	—	田口五段	小波初段
第17回	新沼四段	兼子二段	佐藤1級	広瀬二段	田北二段	寺内三段	山下七段
第18回	田崎二段	森 六段	新沼四段	豊田三段	小白井三段	寺内三段	照沼四段

(注) ①和数字は段位・算用数字は級位を示す。②奨励賞は最下位

## 大会参加者と会員数の推移

大会No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
参加者	4	4	8	8	10	9	12	10	14	13	17	12	15	15	18	18	20	16
会員数	4	4	8	10	12	12	14	15	17	19	20	20	20	21	24	28	28	29

## 会員名簿 (卒業年度・学科・氏名・段級・持点) ……5月8日現在

20 専機 宮木 敏夫二段 119点	22 専通 幸道 貞一初段 111点	28 学機 関 英雄四段 136点
28 学機 小白井和典三段 128点	28 学機 高田 丈夫三段 137点	28 学電 近江 義勝3級 66点
29 学金 照沼 清四段 151点	30 学原 石川 英二二段 123点	31 学原 山崎 慎一郎初段 112点
32 学電 小室 秋生四段 140点	32 学電 田口 嘉男五段 165点	32 学電 田崎 耕八二段 134点
32 学電 山下 正明七段 178点	33 短電 佐藤 馨1級 105点	34 学電 高橋 孝雄三段 129点
36 学機 小波 倭文朗初段 109点	36 学機 真下 知行六段 173点	36 学金 小室 哲夫四段 151点
37 学電 田北 嵩晴二段 114点	38 学機 桜井 衛二段 124点	38 学機 豊田 元雄三段 136点
38 学電 兼子 八郎二段 126点	38 学電 寺内 賢一三段 137点	38 学電 新沼 厚生四段 150点
38 学電 広瀬 行一二段 125点	40 学化 北村 勝昭五段 157点	40 学化 高久 洋二段 124点
40 学化 田中 栄太郎四段 146点	40 学化 森 俊和六段 177点	

## 段級基準点

七段：184点 六段：172点 五段：160点 四段：148点 三段：136点

二段：124点 初段：112点 1級：100点 2級：88点 3級：76点

昇降段級は基準点に達した時点で行っていきます。

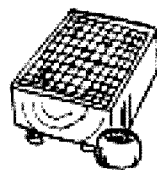
## 囲碁同好会入会窓口

〒178-0065 東京都練馬区西大泉3-25-10

山下正明

TEL&FAX (03) 3922-2143

E-mail yamashita2143@mbh.nifty.com



# ゴルフ部

幹事 桜井 衛 (昭38学機)

多賀いちろう会ゴルフ部は、平成11年5月に幸道部長が創設し、現在までに、中断もありましたが、原則として年間二回ずつ、6回ほど開催されました。22年卒の幸道部長を始めとして、40年卒の高久さんまで総勢26名の部員が、親睦を目的として活躍しています。

メインの大会は、4月、10月の第二火曜日に、根府川の小田原城CCと、御殿場の太陽GCを軸に、近県のゴルフ場で開催することになっています。

加えて、毎年支部懇親ゴルフがありますが、代表者枠の4名に限らず、参加枠が許される限り部員は参加することとし、その他にも個々に数名のメンバーでコースに出向き技術を磨き、部員全体の体力、技術の向上に努めております。今年は6月3日(木)東京支部が幹事となり、梅雨入り前のさわやかな好天の中、三支部懇親ゴルフ大会が行われました。千葉支部5名、埼玉支部6名の方が参加され、東京支部の

11名と合わせて6組、22名の盛大なコンベとなりました。長老は22年卒の東京支部の幸道さん、一番若い方は、40年卒の東京支部の高久さんでした。都心に近い川崎市の郊外の広大な緑地の中にある、変化に富んだ川崎国際生田緑地ゴルフ場で、プレーを楽しみました。特に久しぶりで会った、他支部の同級生や、知り合い同士の方々が、楽しそうにお話をされている様子や、普段聞くことが出来ない、トピックなど飛び出し、支部毎の懇親ゴルフ独特の素晴らしい雰囲気でした。ベストグロスは、埼玉支部の高橋さんで、82でした。プレー終了後のパーティーでは、車での来場でアルコールを飲めない方が多いにもかかわらず、恒例のごとく楽しく、盛り上がりました。

次回幹事役の千葉支部より、来年度は水戸、勝田支部、栃木支部を加えた、5支部での懇親ゴルフの実現に向け努力される旨の話が出ておりました。

部員も年々増えてきております。今後の発展のため、新規入会の方を歓迎いたします。特に40年卒以降の方々の入部は大歓迎です。



三支部対抗戦に参加の皆さん (H16-6-3) 川崎国際生田緑地ゴルフ場にて

# 写真部

写真部長 玉川 信二 (昭28学電)

多賀工業会東京支部写真部は昨年11月の支部幹事会から発足し、現在部員11名から成っています。春・秋の撮影会と冬の研修会とを主な行事とし、今までに次のような活動をしてきました。

平成15年6月 撮影会 堀切菖蒲園  
7月 研修会 池袋簡保会館  
11月 撮影会 高尾山  
平成16年1月 研修会(新年会) 荻窪 魚耕  
4月 撮影会 上野動物園

研修会は部員がそれぞれの作品を持ち寄り、お互いに批評しあい助言を受けて腕を磨く会です。撮影会にも研修会にもその道のプロである齋田和夫氏(昭28学機)のご参加により指導を

いただいています。氏は国際写真展グリーンリボン賞をはじめ多くの受賞・入選歴の持ち主です。

今後の行事予定は11月前半に紅葉の美しい山での撮影会、明年1月に新年会兼研修会を計画しています。

昨年支部総会には部員の作品10点以上を会場に展示し、出席者からの好評を頂いています。総会での展示は毎年行いますが、将来は会場を選んで写真部独自の展覧会の実施を目標に撮影技術の向上を図ってゆくつもりです。

写真部の方針は、単に撮影技術の向上だけでなく上記の会合を通じて部員相互の親睦を図ることを趣旨とし、撮影会の後には必ず「反省会？」を実施しています。

カメラをお持ちの支部会員の方、どうぞ撮影会へ参加してみてください。



# 山遊会

山遊会長 小宅 仁 (昭36学電)

昨年登山・ハイキングの同好会として「山遊会」が発足し、楽しく、家族的な山歩きを目指し活動してきました。現在、昭和28年卒業から同44年卒業までの方々が会員として参加していますが、ご家族の方や友人の方々も参加できる明るいセンスに満ちた会を目指しています。

この1年間の活動状況は以下の通りです。

## 第1回 霊山大山登山

平成15年8月10日(日)参加者9名  
養毛——ヤビツ峠——大山山頂——広沢寺  
(約6時間の歩程)

7月13日に当初計画致しましたが、台風のため中止となり再度計画し実施しました。それでも台風の被害が残りバスが養輪までしか行けず、約1時間登り時間が増えてしまい、加えて暑さが厳しく、少しばかりあごが出てしまって閉口致しました。それでも、夏にも拘らず湘南から伊豆そして遠く房総の山並みが見え、参加者は得心したようでした。広沢寺温泉で汗を流し、寛いだ満足感は最高でした。

## 第2回 奥多摩紅葉の滝めぐりと大岳山登山

平成15年11月8日(土)参加者4名  
千足→瀧めぐり→大岳→ロックガーデン→御嶽神社→御岳山頂駅(約7.5時間の歩程)

この日も参議院選挙と重なり急遽1日繰り上げての実施となったため参加者が4名となりました。

名瀑と多摩の紅葉を満喫しながらの素晴らしい登山となりました。銀嶺旅館で汗を流し多摩の食材

料理に舌鼓を打ちビールで乾杯は忘れられない思い出となりました。

## 第3回 日の出山と吉野梅郷の観梅

平成16年3月14日(日)~15日(月)参加者12名  
御岳山駅→御岳神社参拝→日ノ出山→吉野梅郷→簡保の宿(約5.5時間の歩程)

山遊会旗を掲げての元気な登山となりました。春の日差しが暖かく登りも厳しくなく、下りはなだらかな杉や檜の林のなかを通る快適なハイキングとなりました。青梅の吉野梅郷の梅の公園は未だ若木が多いものの、紅白入り混じった多品種の花で彩られ、その景観に暫し酔いしれてしまいました。青梅かんぼの宿までの郷の道は紅白の梅花は云うに及ばず、レンギョウなども混じり郷の春を満喫させてくれました。

かんぼの湯で汗を流し、ビールの乾杯で始まったお山祝いは学生時代を語り懐かしみ、大いに盛り上がり、買い込んであった約2升のお酒もすっかり空になるころは半分夜も更けておりました。

翌日は彼の吉川英治も歩んだ多摩川遊歩道を散策し春をしっかりと楽しむことができました。

現在予定している16年度の計画は次のようになります。

第4回 霧ヶ峰・八島高層湿原・車山ピーナスコース  
実施日 平成16年7月10日(土)~11日(日)

第5回 丹沢弘法山と鶴巻温泉  
実施日 平成16年10月

山遊会は現役で働いている方も黄金の人生を送られている方も、共に楽しめる会を目指しております。どうぞ気楽にご参加下さい。

# 平成15年度会費納入者

(平成15年4月1日～平成16年3月31日まで)

(敬称略、順不同)

\* 会費ご納入有難うございました。納入された方で記載漏れや間違いがありましたらご寛恕の上、ご連絡下さい。未納の方はご入金をお願いいたします。  
Tel&FAX 045-891-2232 (本名簿作成者：兼子)

16専機 森本 裕	20専精 山田 初太郎	23専原 飯島 公正	28学機 小白井 和典
16専機 大矢 純一	20専精 田島 廣一	23専原 照沼 利浩	28学金 赤城 清
16専原 小川 義夫	20専通 山本 奎兵衛	23専原 名島 龍雄	28学金 池田 潤一
16専原 佐野 健蔵	20専電 大関 純	23専通 荒川 宣夫	28学原 戸島 日出雄
16専原 小笠原 正視	20専電 乙黒 正春	23専通 岡山 保男	28学原 柳沢 裕
16専原 林 義雄	20専電 加藤 慶祐	23専通 土田 健	28学原 山口 茂男
16専精 浅田 敬二	20専電 柴田 信夫	23専通 馬場 昭	28学電 近江 義勝
17専機 岡崎 幸晴	20専電 竹内 靖夫	23専通 松沢 清次	28学電 玉川 信二
17専機 大野 三知雄	20専電 堀毛 一彦	23専通 森尻 茂	28学電 橋本 久美
17専機 田邊 邦行	20専電 都築 久一	23専通 大木 康夫	28学電 山崎 恵三
17専金 田邊 良美	22専機 小亀 秀郎	23専電 小林 猛	28学電 稲見 孝
17専原 鐘木 正	22専機 乗 智成	23専電 塩野 譲	28学電 中原 太平
17専原 志賀 武弘	22専機 立花 浩	23専船 森 栄一郎	29学機 雨澤 道雄
17専原 小泉 保郎	22専金 土居 浩一	24教機 福地 三郎	29学機 今村 純一
17専電 小林 幹	22専金 沼 鶴彦	24教電 浦井 猛	29学金 照沼 清
18専機 宮崎 至誠	22専金 明石 和夫	24専機 白土 四男	29学金 市川 修
18専機 山本 栄治	22専原 植田 英	24専原 真中 和夫	29学原 大久保 半吾
18専金 市島 健男	22専原 唐沢 繁美	24専精 鳥山 尚利	29学原 奥野 真治
18専金 山田 実	22専通 小塚 潔	24専精 檜山 広	29学電 森 章太郎
18専原 石井 督三	22専通 鈴木 潔	24専精 岡 伸考	29学電 寺門 孝雄
18専精 立枝 茂男	22専通 谷口 貞作	24専通 城田 一成	30学機 佐藤 久弥
18専電 八角 方二	22専通 中村 弘	24専通 戸木 禮一	30学機 戸田 濱幸
18専電 関根 宗一	22専通 平林 立	24専電 白石 壽男	30学金 三本木 武
18専電 北條 英雄	22専通 前田 豊昭	24専電 前川 信雄	30学原 成井 浩
19専機 平山 光信	22専通 丸川 武志	24専船 小峰 弘	30学原 石川 英二
19専機 大和田 光徳	22専通 幸道 貞一	24専船 杉山 六郎	30学原 鈴木 日出男
19専機 掛川 宗三郎	22専通 今井 俊夫	25専原 忍田 邦夫	30学原 渡辺 貞二
19専金 大鷹 浩介	22専通 保坂 博	25専精 加藤 達男	30学電 木村 好延
19専原 枋本 二郎	22専電 野坂 賢司	25専精 京野 五一	31学機 高橋 義博
19専原 川尻 悦三	23教電 斉田 耕平	25専電 塩田 昭三	31学機 横山 亨夫
19専精 小泉 篤	23教電 千野 吉治	25専電 高橋 清	31学機 新田 和夫
19専精 林 栄	23専機 内山 哲夫	25専電 村山 錦右	31学金 細井 陽子
19専精 渡辺 益男	23専機 梅田 政夫	26教電 境井 繁夫	31学原 瀬在 城雄
19専精 小松 定男	23専機 高田 浩	26専原 永山 正美	31学原 山崎 慎一郎
19専精 柳田 裕美	23専機 難波 靖治	26専原 渡邊 貢	31学電 大内 孝
19専精 柴 敏夫	23専金 菊地 秀利	26専精 関内 正	31学電 藤川 俊明
19専精 飯田 栄三	23専金 村山 昭平	26専精 藤本 史郎	32学機 伊藤 義次
19専電 関口 利男	23専金 山崎 義一	26専通 菊地 玲二	32学機 國井 榮次
20専原 友保 伊弘	23専原 内田 昭三	26専通 宮島 亮	32学機 平沢 正一
20専原 海老原 謙次郎	23専原 藤原 健之輔	28学機 坂場 昭二	32学機 川又 俊夫

32学機 柴田 勇治	36学機 森永 隆宏	38学電 後藤 紀夫	40学電 山崎 輝行
32学機 溝口 知昭	36学機 小波 俊文朗	38学電 小林 渡	40学金 松本 二郎
32学原 矢野 睦男	36学機 笹生 右	38学電 新沼 厚生	40学化 高久 洋
32学原 榊原 康夫	36学機 林 輝	38学電 渡辺 多加志	40学化 田中 栄太郎
32学電 田崎 耕八	36学電 小宅 仁	38学電 熊谷 文男	40学精 寺 紘一
32学電 山下 正明	36学電 橋本 正直	38学電 小島 淳	42学機 菅谷 禎男
32学電 渡辺 英雄	36学金 高信 和明	38学電 坂野 栄	42学電 伊藤 征洋
32学電 小室 秋生	36学化 山下 邦男	38学電 橘 弘	42学電 浜野 紘一
33学機 奥 康治	37学電 田北 嵩晴	38学電 寺内 賢一	42学金 小蘭井 健
33学原 吉久保 節男	37学金 橋本 善巳	38学電 広瀬 行一	42学精 山本 蕃
33学原 山崎 勝雄	37学化 阿部 徳治	38学化 矢部 功一	43学子 鈴木 弘道
33学電 鳥居 由幸	38学機 駒場 方耀	38学化 伊藤 喜代之	44学精 菊地 政行
33学金 三浦 陽	38学機 半田 守正	38学化 大塚 進	44学精 山口 良治
33学金 荒川 靖	38学機 牧山 永三	38学化 笹島 淳之助	45学電 永木 利夫
33短電 佐藤 馨	38学機 桜井 衛	38学精 黒羽 昇	46学電 飯塚 英一
34学機 藤田 邦男	38学機 佐藤 幸一	39学機 筧 逸男	48院電 大久保 栄治
34学電 千葉 克男	38学機 丹下 宏	39学機 北島 正保	46学電 狩野 守
34学電 結城 佑	38学機 中村 好秀	39学機 小林 章夫	46学子 栗原 功幸
34学電 森田 敏夫	38学機 益子 洋一	39学機 溝口 香織	47学機 高田 洋
34学電 高野 史雄	38学機 寺門 章	39学機 須藤 和英	48学機 金子 芳久
35学機 宇留野 清	38学機 徳江 影英	39学機 佐川 六郎	49学電 田代 博行
35学機 高野 久弘	38学機 小林 一	39学電 大原 広哉	50学金 渡辺 隆
35学機 山口 宣之	38学電 大久 忠雄	39学金 横山 安行	53学電 水島 好彦
36学機 柏木 尚	38学電 佐々木登喜夫	39学化 竹澤 英明	59学子 仲澤 斉
36学機 上月 秀俊	38学電 今橋 富美男	40学機 熊倉 通	平7学電子 箱田 秀孝
36学機 真下 知行	38学電 兼子 八郎	40学機 大塚 由則	平8院生 東 學
			合計 264名

お詫び： 昨年の会報で平成14年度会費納入者一覧から次の方のお名前がもれていました。  
 謹んでお詫び申し上げます。

16専原 小川 義夫	17専原 渡辺 幸男	22専機 梅田 豊治	22専機 小亀 秀郎
22専機 富山 栄	22専機 立花 浩	22専機 佐藤 昭三	22専金 土居 浩一
22専金 前田 英一	22専原 石川 義男	22専通 前田 豊昭	22専電 野坂 賢司
28学原 戸島 日出雄	28学電 大森 通	36学機 森永 隆宏	39学電 原 俊彦
40学化 鈴木 勉	42学化 井藤 紘	43学子 永井 六夫	44学子 笹島 晃

尚15年度になって14年度会費を納入された方は次のとおりです。

19専精 飯田 栄三	20専電 大関 純	20専電 都築 久一	28学電 玉川 信二
32学電 山下 正明	38学化 伊藤 喜代之	38学機 中村 好秀	40学精 寺 紘一
47学機 高田 洋			

## 平成15年度寄付者名簿

(平成15年4月1日～平成16年3月31日まで)

18専金 市島 健男 10,000

38学電 寺内 賢一 50,000

年会費納入のお願い： 添付の払込取扱票でお早めにご入金下さい。

# 支部ホームページ

ホームページ編集長  
玉川 信二 (昭28学電)

一昨年、支部総会の村野井理事長からの多賀工業会ホームページの紹介に触発され、東京支部の分の内容を豊富にして全会員にPRしようと思ひ、ホームページ編集長を担当することになった。一昨年当初は記事が少なく、あっても過去のものが多く内容が貧弱であった。しかし、昨年、本部側のご尽力により、これらが一新され、案内と実施報告が区分され、イラストも入って立派な体裁となり、他大学の同窓会のホームページと比べても勝るとも劣らぬ内容としていただいた。これを契機に当支部の行事はできるだけホームページに発表するようにした。これにつられて工業会の他の支部でも当支部と競争で内容の充実を図るようになってきた。現

在東京支部では総会・同好会の案内(予定)とその実施報告をそのつど写真入で掲載し、行事の紹介と参加勧誘を行っている。

本部ホームページのURLは次の通りであり、会員の皆様はぜひ常に目を通して活動状況を把握し、行事に積極的に参加していただきたい。

<http://www-taga.admt.ibaraki.ac.jp/index.html>

ホームページへの発表は支部内各同好会から原稿を当方に提出してもらい、これを当方がチェック補訂したうえで本部に送付し、掲載して頂いている。

現在、他支部のごく一部では独立したwebを持っているが、東京支部でもその方向で準備中であり、10月23日の支部総会で、URLをお知らせできる予定である。

同好会以外で発表を希望する場合は、当方にご相談いただきたい。別に本部ホームページの中に「掲示板」の欄があり、ここには会員誰でも自由に投稿できる。

## 編集後記

今年は幾つかの新しい試みを取り入れました。

- ①これまで会報の表紙の写真は東京、神奈川の名所風景写真を交互に使っていました。昨年写真部が出来ましたので、今号から写真部の作品検討会で一位になった写真を表紙に使用させて頂くことにしました。目次下段の写真説明もご覧下さい。
- ②今号から新しい試みとして、多賀工業会ホームページに掲載されている「活躍人」を訪問して、いろいろお話を伺うインタビュー記事欄を設けました。ご期待下さい。
- ③ご寄付を頂いた方々のお名前等も掲載することにしました。
- ④今年は昨年よりも4ページ増やしましたが、印刷費用は大幅に削減されます。原稿をワードかエクセルで作成し、印刷所へはeメール等で送付することとしましたので、印刷所での入力作業等を削減することが出来た効果です。

ご寄稿の皆様にも多大の御協力を頂きましたので、編集子が入力いたしましたのはごく少数に止まりました。

⑤会報の発送作業についても、これまでの担当者が銘々に自宅で行う方式から、担当者が一堂に会しての共同作業に変更します。

⑥編集作業も世代交代を図りつつ、昭30から昭38へと軸足を移動しつつ進めて行きます。

アンケート集計結果報告で指摘されているように、何時までも大先輩にお世話になっている状態では、情けないという気持ちが強い一人です。若手の皆さんの各種行事への積極的な参加が望まれてなりません。

週に3度程相州の田舎道を40分ばかり歩きます。花の頃はくっきり見えたお山ですが、つゆ晴れにかすみで不二の見えざれば

関東平野が広く見えたり (兼子記)

### 編集担当委員

鈴木 日出男 (昭30学原)  
三本木 武 (昭30学金)  
兼子 八郎 (昭38学電)  
小林 渡 (昭38学電)  
菅谷 禎男 (昭42学機)

### 東京支部会報 [第7号]

発行 平成16年8月25日  
発行者 支部長 近江 義勝  
〒113-0032 東京都文京区弥生2-8-6  
TEL 03-3811-7088 (FAX共)

# 「東京支部会則」 (改正案)

## 第1章 総則

第1条 本会は、多賀工業会東京支部と称し、その支部事務所を支部長宅に置く。

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、合わせて母校の隆昌に寄与することを目的とする。

## 第2章 事業

第3条 本会は、第2条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員名簿の整備・管理
- (3) 会員相互の連絡及び共励共助
- (4) 会員と母校との連絡
- (5) 発展向上のための講演会、研修会
- (6) 同好会活動
- (7) その他目標達成のため必要と認める事項

## 第3章 会員

第4条 本会の会員は、多賀工業会の会員で東京・神奈川及び近隣に在住・在勤している者、並びに支部長が特別に承認した者とする。

## 第4章 役員

第5条 本会は次の役員を置く。

支部長 1名  
副支部長 若干名  
幹事長 1名  
幹事 若干名  
会計幹事 1名  
監事 2名

その他(同好会幹事、相談役、顧問)若干名

第6条 役員は、次の方法によって定める。

支部長は、幹事の互選とし総会での承認を得るものとする。

支部長以外は、支部長が推薦し、現幹事会の決議を得るものとする。

第7条 役員の仕事は、次の通りである。

支部長 本会を代表し、会の運営・会務執行の責めに任ずる。

副支部長 支部長を補佐し、支部長が職務不能な時はその責務を代行する。

幹事長 幹事の業務を統括する。

幹事 会の運営業務を夫々分担して遂行する。

会計幹事 本会の収支、及び会計を担当する。

監事 会計を監査し総会で報告する。

同好会幹事 同好会毎に部長、副部長等を定め、自主的に運営する。

相談役 支部長の相談に応ずる。

顧問 支部長・幹事会の諮問に応ずる。

第8条 役員の仕事は2年とし、重任を妨げない。

## 第5章 会議

第9条 支部総会は、原則として毎年10月に開催

する。但し、必要に応じ臨時支部総会を開くことができる。

第10条 支部総会は、次の事項について審議し、出席者の過半数の賛成で決議する。

- (1) 支部長人事
- (2) 会則の改廃
- (3) 本会の年度決算並びに次年度予算
- (4) 本会の年度事業報告並びに次年度計画
- (5) 幹事会からの提出議案
- (6) その他本会の目的を達成するに必要な事項

第11条 幹事会は、幹事をもって構成し原則として年4回(2、5、8、11月の第4土曜日)開催する。但し、必要に応じ支部長又は幹事長が臨時に召集し開催できる。

第12条 幹事会は、次の事項について審議し、出席者の3分の2以上の賛成で決議事項とする。

- (1) 支部長の互選及びその他役員決定
- (2) 会則の改廃案
- (3) 本会の年度決算案並びに次年度予算案
- (4) 本会の年度事業報告案並びに次年度計画案
- (5) 総会への提出議案
- (6) 細則規定の改廃
- (7) その他会務運営上必要な事項

## 第6章 会計

第13条 本会の経費は、会員の年会費、寄付金及び本部補助金をもってあてる。

第14条 現金の保管は銀行預金の方法による。

第15条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

第16条 本会の収支は、会計幹事が担当し、監事が会計監査を行い総会に報告する。

付則 本会則は、平成16年10月23日より施行する。

### 細則規定

第1条 年会費は、2000円とし、会計年度内に徴収する。複数年度分の先行納入は拒まない。但し、一旦納入の会費は返還しない。

第2条 会報は次の者に配布する。

- (1) 年会費納入者(但し、5年連続未納者には6回目に通知し以降配布を停止する)
- (2) 支部総会参加者
- (3) 東京・神奈川に在住・在勤の直近3年間の卒業生
- (4) 配布希望者で支部長が許可した者
- (5) その他多賀工業会本部及び支部等の関係者

第3条 総会開催の案内は、会報にて発表するとともに書面で通知する。書面による通知は、第2条の対象者以外にも広げて発送する。

第4条 慶弔規定は別途定める。

第5条 本細則の改廃は、幹事会にて行う。

本細則は、平成16年10月23日より施行する。

# 多賀工業会東京支部總會々場



## ご婚礼・ご宴会・お写真

【 会議・美容・着付け  
出張パーティー 】

パンフレットをお送り致します。

## 東条インペリアルパレス

半蔵門 東条會館 ☎ 3265-5111  
〒102-8525 東京都千代田区麴町1-12

## K.K. 渡辺建築事務所

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-4-8

TEL 03-3987-1946 FAX 03-3985-3433

代表取締役 渡辺 益男 (昭19専精)

設計した主な顧客

(官庁)

東京都庁

各区役所

埼玉県庁

川口市等

その他

(民間)

本田技研工業(株)

信越科学工業(株)

日本マタイ(株)

トステム(株)

その他

建築設計監理

(コンサルタント)

著書 工場建築デザイン

(日刊工業新聞社)

平成7年5月出版

■決め手はパテント！

## 葛西・糟谷特許事務所

弁理士 葛西 四郎 (大学電気 31年卒)

〒105-0004 東京都港区新橋 6-6-9 岡田ビル4階

☎ 03-3438-1618 FAX 03-3438-1619

(事業内容)

出願・審判・判定・鑑定・訴訟・その他  
技術・法律上の新規・困難な問題にも  
創造的に対処することが出来ます。